

平成25年度（2013年度）度真珠養殖漁場の真珠母貝成長

幡野 真隆・石崎 大介

1. 目 的

県内淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

2. 方 法

2013年5月から2014年3月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、赤野井湾、堅田内湖において、概ね2ヶ月に1回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は2010年より垂下している大型の母貝（以下大型貝、供試数は西の湖、赤野井湾、堅田内湖それぞれn=19, 20, 18）ならびに、昨年度より新たに垂下している小型の母貝（以下小型貝、供試数n=25, 25, 24）の2系統を測定に供した。大型貝は縦型のネットに收容し、小型貝はバットの底に砂を敷いて、その中に收容した。水質はイケチョウガイの餌料環境を評価する指標として、粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィルa量を分析した。

3. 結 果

各漁場における母貝の成長を図1に示す。各漁場とも一定の成長はみられたが、堅田内湖では大型貝、小型貝ともに成長が悪かった。また、生残率も西の湖や赤の井湾では100%であったのに対し、堅田内湖では大型貝が72%、小型貝では79%であった。粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィルa濃度は西の湖で高く、赤野井湾や堅田内湖では特に夏季に低い傾向であった。

堅田内湖では母貝の死亡率が高いことが懸念されが、同内湖は昨年度に続き、夏季にヒシの繁茂が観察されており、養殖環境が悪化していると考えられ、ヒシの除去等の対策が必要であると考えられる。

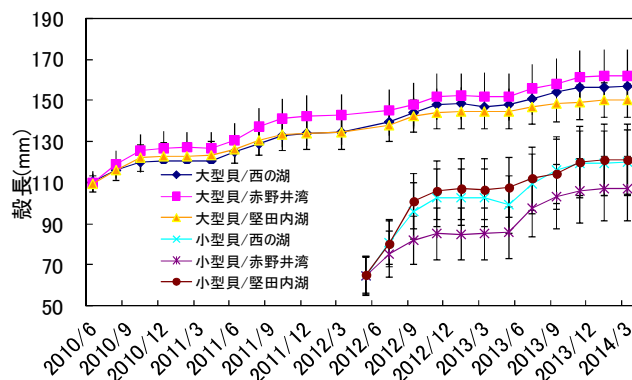


図1 試験貝の殻長測定結果

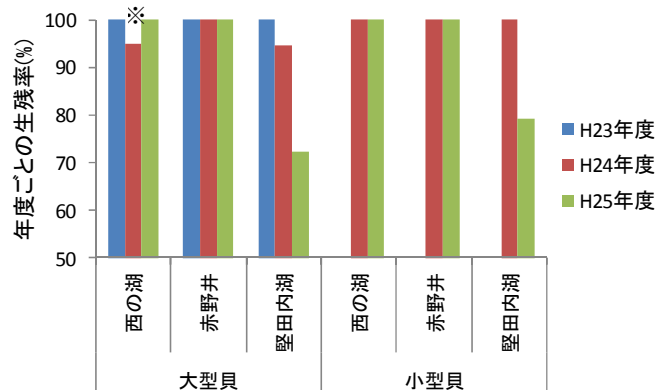
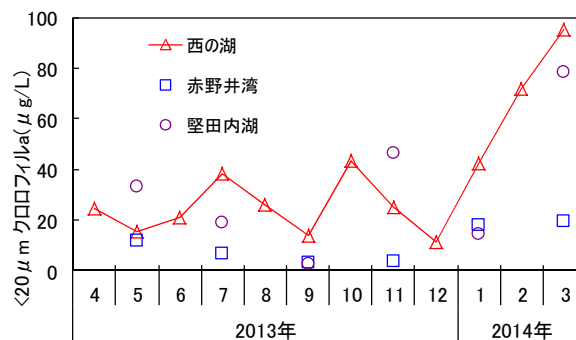


図2 年度ごとの試験貝の生残率（※ネットからの脱落）

図3 粒径 $20\mu\text{m}$ 以下の画分のクロロフィルa量の推移